

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2007年6月発行～

ひびきジャーナル



〒106-0031 東京都港区西麻布 2-9-2 Tel:03-3407-3726 Fax:03-3797-5640 e-mail:info@pure-music.ne.jp

No.19

発行日 平成19年6月30日
発行責任者 玉木宏樹
編集 NPO 法人 純正律音楽研究会
秋山治樹・相坂政夫

【新任のご挨拶】

秋山治樹

大変長らくお待たせ致しました。久々の『ひびきジャーナル』をお届けさせて頂きます。5月の号外でお知らせ致しましたが、皆様に長い間ご愛顧頂いておりました事務局の青木（旧姓神田）が無事出産を終えまして、元気な男の子（温君）が誕生致しました。これからは暫く育児に専念したいという青木の強い意向によりまして、一先ずこの6月末にて純正律音楽研究会と有限会社アルキを円満退社することとなりました。本来ならば皆様お一人お一人に、青木よりご挨拶を申し上げるべきところがございますが、青木より『今まで皆様に大変お世話になり心より感謝申し上げます。これからは暫く育児に専念致しますが、近い将来にまた玉木のコンサート会場で皆様にお会いできますことを夢みております。本当に有難うございました。』とのメッセージをお届け致します。

さて、この4月より純正律音楽研究会は新体制で動き出しております。私、前回の号外より登場しております秋山治樹と申します。6月9日に行われた純正律音楽研究会総会にて理事の一端に加わらせて頂きました。同じく事務局長の任に就きました相坂政夫、そして広報担当の椿友幸を加えての3人体制で固めてまいります。青木は女性一人で頑張っておりましたが、このオヤジ3人は彼女に負けないよう結果を出して行きたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、新任のご挨拶には全然なっておりませんが、ここで純正律音楽研究会、そして玉木宏樹とお仕事をご一緒させて頂くきっかけをご披露させて頂きます。

それは衝撃的でした。昨年7月に神奈川にあります鎌倉芸術館ホールで行われた、とあるコンサートに玉木がゲストで招かれて、純正律音楽のヴァイオリ

ンを 20 分ほど演奏した際、私達は CD の販売をお手伝いすることがございました。その CD 販売の場面を見て私は今までの人生を覆すくらいの物凄い衝撃を受けたのです。

玉木の演奏が終わり、その後 10 分ほどの休憩時間となったのですが、その際に、この休憩時間に CD 販売する予定ではなかった販売コーナーに沢山の人が並び始めてしまったのです。慌てて玉木を呼び CD サイン販売会となりました。とにかく物凄い人、人、人・・・で、玉木はお客様のお名前ですぐで作曲して、それをジャケットに五線譜と音符を書いてサインをする。購入されたお客様は、心から喜んでおられる様子！ 日頃ストレスの多い方、不眠症で悩まれておられる方、難聴・耳鳴りの症状をお持ちの方、高齢のご両親が認知症で処方箋がなくて悩んでおられる方と、様々な方々がおられました。その場面はまるで、医師と患者さんのイメージだったのです。10 分の休憩時間は、とうに過ぎていたのは言うまでもありません。その時の CD 販売総数がなんと 380 枚！私は仕事柄、様々なアーティストの CD 販売に立会っておりますが、一回のコンサートで、しかもゲスト出演で、CD を 300 枚以上も販売するなんていう場面に出くわしたことが今までありません。これはもう現象です。何かが起きています！初めて玉木の音を生で聴いて、そしてその音を必要としている人たちが、こんなに沢山いるなんて！ これは、もっともっと発信しなくちゃいけない！とその時決めたのです。

この時の衝撃が今も私の体を貫いております。きっと待っている人たちが沢山いる。その人たちに早く知らせたい。音を届けてあげたい。この気持ちで玉木とミートして、仕事をご一緒するきっかけとなりました。玉木は、大胆にして非常にセンシティブな音楽家でございます。今世紀最初で最後の偉大なる作曲家にしてヴァイオリニストであると信じてやみません。そんな玉木と、『純正律音楽』をより多くの方々に発信して行くというお仕事をご一緒出来る、それは本当にこの上ない幸せでございます。新体制で加わりました秋山、相坂、椿のそれぞれの持ち味を活かして、そしてこの初心を忘れずに活動して行くつもりです。益々皆様のご助力が必要となってまいりますので、どうかこれからも引き続き宜しく、お願い申し上げます。長いお話となりましたが、新任のご挨拶とさせていただきます。近々、玉木のコンサート会場にて、皆様にお会いできますこと、私も夢みております。



【理事会・総会のご報告】

6月9日（土）18:30より、西麻布『フレンズ』にて18年度理事会、続いて総会が議長、玉木宏樹の進行にて行われましたので、下記の通りご報告させていただきます。

記

ご出席：（正会員）長岡衛治氏、廣川 深氏、常重一志氏
（理事）西潟昭子氏、福田六花氏、玉木宏樹
（監事）田向正一氏、八木澤享一氏
秋山治樹、相坂政夫



*退任のご報告

事務局で仕事をしておりました青木（旧姓神田）が、6月末日をもって退任致しました。暫くは育児に専念致します。

*新理事・新事務局長

青木退任に伴って、新理事に秋山治樹、事務局長に相坂政夫の就任を理事長より提案があり、理事会・総会ご出席者全員一致にて承認されました。

*18年度決算報告

18年度事業会計収支計算書に基づき、議長より説明。

『18年度は、特に問題になる程多くの売上げがあがっておりません。大したもんだなぁと言われるぐらいにしたいものです。凄く問題になるほど売上げが良くなってきたら、監事の二人が目を光らせて下さい。』

以上、全員一致にてご承認を受けました。

*18年度事業報告

18年度の主だったイベント等々の事業報告を議長より報告致しました。

①2006年10月8日・9日の2日間、玉木宏樹がNHK『ラジオ深夜便～こころの時代～』に出演致しました。玉木は『心にも体にも美しく響く純正律

には、人の心を癒し、静めるチカラがある。』と説いて、リスナーから物凄
い多くの反響を頂きました。

- ②2007年3月号の『かいごの学校』に、福田六花氏が『音楽のチカラで、認
知症の人が穏やかになる』と介護医療の現場からの声として、ご寄稿頂く。
- ③玉木宏樹のBEST盤とでも言うべき新CD『天の川』が2007年4月に発売
されました。
- ④健康誌『壮快』に、『耳鳴りと難聴・・・純正律音楽の効用』ということで、
玉木宏樹の純正律音楽の特集が組まれました。問合せも多く大反響です。
等々。

*6月時点で決定している今後の活動予定

- ①6月17日(日)に、名古屋電気文化会館イベントホールにて純正律音楽セ
ミナー、玉木宏樹の『音楽革命論』(第一部：野村満男氏と共に・第二部：
福田六花氏と共に)を行う予定。
- ②8月4日(土)福島のイベントにて、玉木宏樹がゲスト出演の予定。
- ③9月26・27日(水・木)玉木が仙川にある桐朋学園芸術短大にて、『学生
と地域住民の為の集中講義』を行います。

*今後の営業計画

研究会は『純正律音楽を、もっと世の中に広めたい』を出口に、まず出来
ることから始めよう！ということから、その為の手段をアイデアフラッシュ
としてまとめました。それをベースにしてご出席の皆様よりご意見、ご提案
を頂戴致しました。

① コンサート・セミナー企画

・プラネタリウムでの純正律音楽会(生演奏)

解説を入れず星空を眺めながら玉木氏の生演奏を聴いてもらうという
スタイルならば面白いと思う。音のサプリメントという切り口。但し、
自主催で行うと集客やコストが読めないなので、企業企画等によって行っ
たほうが良いと思う。(福田氏より)

・都電貸切り演奏会

都電ならパブリシティのネタにもなる。(常重氏よりご提案)

会員ばかりが来るイベントでは意味をなさない。新しい層を増やすこ
とが必要。(福田氏より)

鉄道ファンにも参加して欲しい。毎月定期的に行ったらどうか。(玉
木)

・ワークショップ・教育プログラム(田向氏より)

純正律音楽をまだ知らない人たちに向けて行う。例えば、出前ショップ。公立校より私学の方がフレキシブル。年間予算を立てるのは2月なので、その辺りまででのアプローチが必要。(長岡氏より)

玉木氏に以前、演奏会に来てもらったが、非常に好評でした。これからもお願いしたいと思っておりますが、初めての人の、ただ純正律音楽と言っても中々理解が出来ないのが現状です。そこをクリアできるといいのですが。(廣川氏より)

最初はキーマンになる方でも、少人数でも演奏会に伺いますので、そこから始めたらどうでしょう。(玉木より)

公立校では『公開道徳講座』というのがあって、年3回体育館等を使用して行うことになっている。出演料は安い。(福田氏)

出演料には重きを置かない。物販(CD・書籍)が出来ればOK。(玉木)

② 会報『ひびきジャーナル』のリニューアル。

体制も変わったことなので、会報も一新して行きたい。新しい企画がありましたら、どしどし提案してもらいたい。(玉木より)

会員の方々に、寄稿してもらったのでしょうか。(長岡氏より)

必ずしも音楽ジャンルではなくても良いと思う。硬い話より、柔らかい話も必要。マラソン、教育の現場、うどん屋さんのお話、SF等々。全体の2/5位は音楽ジャンルではなくても良いのでは。(福田氏より)

③ 純正律音楽研究会の入会金

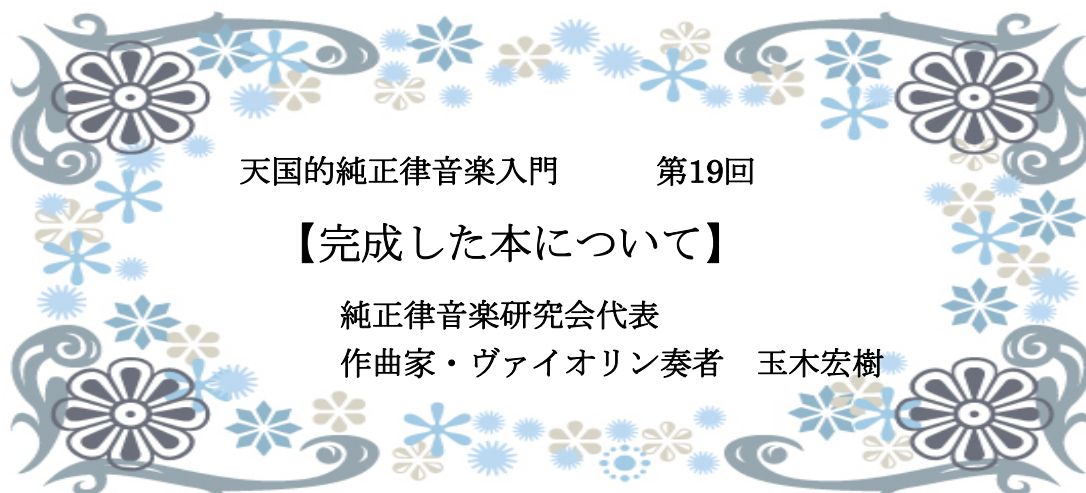
会員メリットを増やし、正会員を今後200名の目標にしたい。その為には、年会費に関しては、従来通りの5000円、新規入会金として1000円を新たに頂くことを提案。(秋山提案)

この件は、定款を変更することになるので難しい。現状維持のまま、会員メリットを増やし、更に会員数増加を目標に活動して欲しい。暫く現状維持で行きましょう。(玉木より)

④ その他。

今回、理事会・総会の会場としてお世話になった『フレンズ』のマスターより、お話がありました。よくお店に来られる女性のお客様で、不眠症に悩まれておられる方がいました。その方に、『壮快』を見せて純正律の効用を話し、クスリを飲むより玉木さんのCDを聴いた方が体にいいですよ！副作用もないし・・・と薦めたところ、その方がCDを購入され、暫くしてから、凄く良く眠れたとのご報告があったそうです。それ以来そのお客様は玉木のファンになられたとのことでした。確実に、女性のファンが増えてきております。

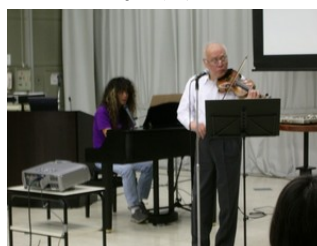
以上、理事会・総会の概要ご報告でございました。



私は、その場の先生達に訊きました。『先生たちは、ドミソを本当に美しいと思ったことはあるんですか？』

私の新しい本に関して、前回ここまで書いて、以下は次回にて・・・で終わりました。その後実際に本が完成すると、出版社はカバーの裏にキャッチコピーのように、その先生方との対話の抜粋が載りました。私はもちろんその原稿に眼を通した時、これはちょっと先生方に対して失礼かも知れないと思い、こんな文章、載せてよいかと訊きました。すると先生方は、『もちろんOKですよ。だって事実なんだから。』と実に冷静な反応でした。有難いことです。

4月の20日に店頭並び、いよいよ発売です。オーダーは予想より少なめだったようですが、メゲてはいられません。しかし、ネット書店では結構案内が並んでいました。4月21日に青山の店で出版記念パーティを行い、沢山の方々から励ましのお言葉を頂きました。またこの本の『革命』という言葉がアクセントになったのか、桐朋芸術短大の上尾教授から9月の集中講義で、芸術の壁をぶち壊す講座をやって欲しいという話が来ました。また、純正律音楽研究会の名古屋支部の岡田さんから、本の内容に即した話と、純正律や色々な調律の話をして欲しいということで、6月17日に4時間にわたって名古屋市伏見で実演と話をしてきました。調律に関しては、大権威の野村満男さん、また純正律の医療面での実践に関して、ドクター福田六花氏（NPOの理事であり、毎号エッセイを書いて頂いている）と二人に、出演を頂きました。有難うございました。

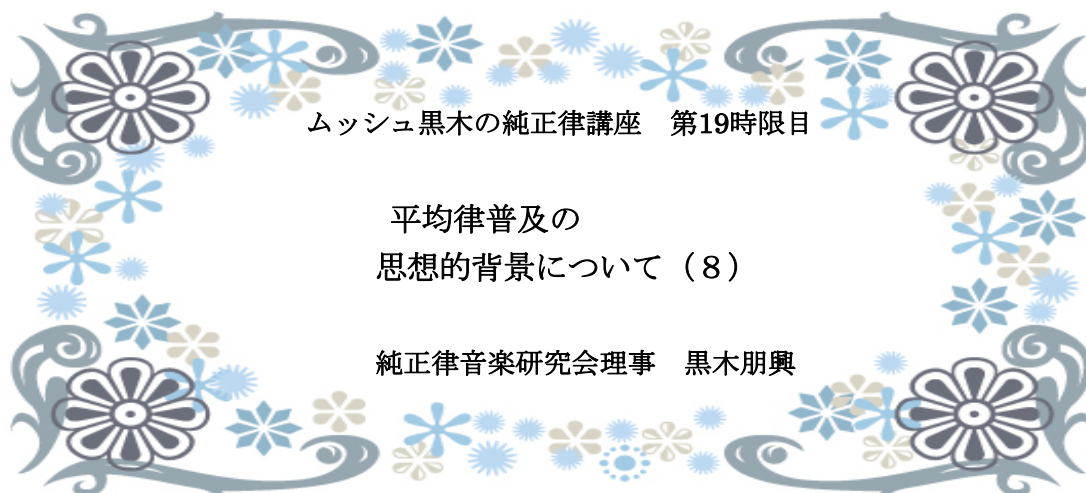


その後、当NPOの名誉顧問をお願いしている永 六輔さん(この本の推薦者でもある)が毎週出演していらっしゃる『六輔その新世界』(TBSラジオ、土曜日朝8:30~13:00)に5月26日、出演して本の宣伝をすることができました。永さんも本当に協力的で、いろんな話ことができました。番組のファンに、本を10冊プレゼントしたのですが、その翌週には出版芸術社に多数のオーダーが来たということで、ラジオの威力に担当者も驚いていました。私は今、洗足学園音大で講座を持っていますが、このところの話は殆んどこの本の内容に沿って進めています。学生も大変面白がっているので、ホッとしています。

そしてまた、TBSラジオから、永さんの番組への出演依頼が来ました。6月23日の土曜日、9時、10時、11時、12時と4回、ヴァイオリン演奏と番組進行のナビゲーターをこなしました。私はヴァイオリンはプロですが、セリフを喋るのは全くのドシロウト、しかし開き直ってやったら、ラジオを聴いていたリスナーから『ヴァイオリンは爽やかでいいんだけど、その後に喋ったのは一体誰か？ コメディアンか？』という質問が来て大笑いしました。会員の皆様、私はこの会報ではまじめ腐った感じですが、実はかなりコメディアン的な側面もあり、是非ライブ演奏を企画して頂ければ、喜んで馳せ参じます。さて永さんの番組、12時の演奏と喋りが終わり帰ろうとしたら、永さんに呼び止められ、12時半過ぎのおしゃべりコーナーにも参加しました。永さんのお喋りも非常に快調で、純正律の話もはずみ、とてもいい出演となりました。

『音楽革命論 ークラシックの壁をぶち壊せ！！ー』 まだお読みでない方、是非ご一読下さって、ご意見を伺いたいと思っています。よろしく。





国中の時計が同じリズムを刻み、そしてすべて標準時に合わせるようになる。やがてその基準は国を超え、世界中を支配するようになる。今の言葉で言えば、グローバルスタンダードの普及である。そしてそのグローバルスタンダードは、携帯時計の普及によって、個人の生活にも入り込んでくる。

このことによる生活の変化を見るために、散文詩を2編引用してみよう。実際、文学作品というものは、時代の空気を伝える極めて良い証言となってくれる。

時計

中国人は猫たちの眼の中に時刻を見る。

ある日、南京の郊外を散歩していた一人の宣教師が、時計を忘れてきたことに気づき、小さな男の子に、いま何時であるかと尋ねた。

<天帝の国>のわんぱく小僧は初めためらったが、思い直して、「今すぐ教えてあげます」と答えた。間もなく、彼はたいそう肥った猫を抱いて戻っていたが、よく言うように、猫の白眼を見つめながら、「まだきっちり正午ではありません」と、ためらわずに断言した。それは正しかった。

私はといえば、彼女の同姓の誉れでもあり、私の心の香りでもある、麗しの<猫姫>、いみじくもかくも名づけられた女の方へと身を屈める時、夜であろうと、昼であろうと、全たき光の中であろうと、光を透さぬ陰の中であろうと、彼女の愛らしい眼の奥に、私はいつもはっきりと、時刻を、いつも同じ時刻を、広漠として、荘厳で、空間のように大きく、分や秒の区分のない一つの時計を見る。-時計の上に刻まれぬ、不動の時刻、それでいて、溜息のように軽やかで、目の一瞥のように速やかな時刻を。

そしてもしも、この甘美な文字盤の上に私の眼差しがじっと止まっている時、誰かうるさい奴がやって来て邪魔をするなら、もしも、どこかの無

作法で料簡のせまい<精霊>、誰やら間の悪い<魔物>がやって来て、
 「そんなに念を入れて、何を見ているのかね？そのひとの眼の中に何を探しているのだね？時刻でも見えるのかね。いずれは死ぬ身の浪費屋。忘れ者よ？」などと私に言おうものなら、私はためらわずに答えるのだろう。
 「そうとも時刻が見える。時刻は今<永遠>だ！」と。[。。。]（『パリの憂鬱』より。阿部良雄訳）

フランスの19世紀を代表する詩人ボードレールによる1857年発表の散文詩からの引用である。もちろん詩人は中国などには行ったこともなく、訳者の解説によればユック神父の中国旅行記に出てくる逸話らしい。また、詩人がこの逸話を読んだかどうかは定かではないらしい。ここに単純なオリエンタリズムを読み取ることも可能だし、更に、時間に追われせき立てられるように仕事をこなす労働者=<魔物>と自由で優雅な時間の中で創作にいそしむ芸術家=詩人の対比を見出すことも可能だ。特に、この時間に厳格な労働者のあり方は、後の世のテイラー主義を連想させると言っても良い。しかし、携帯時計が普及し始めた時代であるという当時の歴史的背景を併せて考えれば、詩人が抵抗しているのは、機械文明がもたらす社会の変化であるという具合に解することが出来るだろう。このことはボードレールの同時代人によるもう一つの散文詩を引用してみることによって明らかになるのだが、その詩の紹介は字数の都合上、次回にまわさせて頂く。

時計



砂時計は告げる、我々はみんな瞬間瞬間を数え上げるモノになる、と。水時計は言う、この世にしづくの涙で刻まれないものはなく、今後の世代はもはやしたたる水滴以外の何ものでもなくなってしまう。沈黙の雄弁家たる日時計は影でもって光が続く時間を計るし、苦労や喜びも死に向かって歩んでいくのだとひっきりなしに繰り返し語りかけてくる。砂時計も水時計も日時計も視線を通してのみ思考に訴えかける。人はこれでは十分ではないと思ったのだ。人は耳に時の流れを聞くように強いたのだ。自分たちの時間がどうなくなってしまうか分からずに、その時間の群に鈴をつけ、そして、この素晴らしい発明のおかげで自分の人生の分け前に対して吊鐘ならせるようになったのだ。



【旅の思い出】

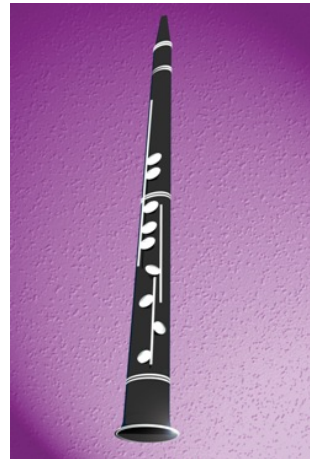
純正律音楽研究会正会員
音楽事務所 Musica おおた
廣川 深

旅の楽しみには自然探訪、温泉、そぞろ歩き、宿での食事、土産物などいろいろありますが、私の旅の楽しみ、そして思い出作りの一つは、その地方の楽器をさがして集めることです。それもカバンにいれて持ち歩けるくらいの小型の楽器です。あまり大きなものや高価なものはありません。国内ですとやはり竹笛、土笛のような笛の仲間が多いですね。ドイツではホーナーのハーモニカ、ウィーンではナチュラルホルンを買ってきました。ハーモニカとホルンは高かったので別格ですが、あとは楽器棚の箱の中にザラザラとはいつています。私にとってはまさにおもちゃ箱。これらの楽器は、まずきれいな音をだすことがむずかしい。そもそも伝統的な楽器というものは、音の出しやすさとか演奏のしやすさなどというものはあまり考えられていないことが多いのです。演奏しやすいように改良されたものもありますが、多くはほぼ原形のままで。それだけにきれいな音が出たときは嬉しいですね。こうした楽器をみるたびに『あぁ、これはあそこで買ったものだ。』と思い出すのです。考えてみると、私は子供の時から何か音の出る物、鳴り物が好きだったようです。

話はかわって、今から三十数年前、音大の学生時代の話です。私は毎年夏になると長野県白馬村でアルバイトをしていました。『母と子の自然教室』というイベントなのですが、キャンプファイヤーでアコーディオンを弾くという仕事でした。三泊四日のスケジュールが十二回ほどありましたからキャンプファイヤーも十二回あったわけです。私は小学校五年のときから、アコーディオンをやっていますが、この仕事をとおして『なんて楽しい楽器だろう』とますますこの楽器が好きになりました。アコーディオンという楽器は複雑なメカニズムをもっていますが、その一方で楽器自体が呼吸をしているような妙に生き物っぽい楽器であり、蛇腹の操作一つでいろいろな表情が出せる、素敵な楽器です。

あのときの白馬村での記憶は、今も仕事の中に生きている気がします。観光旅行とはちょっと違いますが、これも私にとっては貴重な旅の思い出の一つとなっています。ソロで弾いてもよし、歌の伴奏としてもゴキゲンな楽器ですが、私は今、アコーディオンを他の弦楽器や管楽器と同じようにアンサンブルのなかで使うことを試みています。手始めに昨年アコーディオンとクラリネットのための曲を書き、今年の一月に初演しました。自分でも『へえ〜』と思うくらい、アコとクラはよく合いました。まあ、どちらもリードを使う楽器ですから、その点似ているんですかね。今後もいろいろな楽器との組み合わせを試してみます。これも白馬村の成果かもしれません。

旅をすれば、必ずどこかで音楽と結びつく。これが私にとって旅の楽しみの一つなのです。





【ねこふんじゃった編曲アラカルト】

純正律音楽研究会正会員

ミュージック ジョイ ミヤモト

代表 宮本ルミ子

“ねこふんじゃった”は日本ではピアノを始めた子供が弾くお遊びメロディ程度の認識が一般的ですが、この曲は日本の曲ではなく世界中で親しまれていながら作曲者不詳の不思議な曲です。

この件に関しては今では多くの方が調査研究をし、それぞれの意見を発表されても居り、また Web に公開している“ねこふんじゃった資料室”でも詳しく解説しているのでここでは“ねこふんじゃった”にはその様な不思議なバックグラウンドがあると言う事だけに留めて置きます。

ところで“ねこふんじゃった”が歌詞をつけて童謡のように歌われているのは日本以外に1～2ヶ国程度であり殆どの国では演奏だけの曲になっています。つまり国々によって色々なジャンルの演奏の曲になっているわけです。そこでそれを面白がったいろんなジャンルの多くの音楽家の方々が夫々思い思いの新しい“ねこふんじゃった”を作って演奏されたり歌ったりしています。今回はその様な“ねこふんじゃった”についての散歩話に少々お付き合いを頂きますようお願い致します。

その前にわたしの“ねこふんじゃった”編曲への、のめり込みの引金になったお話を少々ご紹介させて頂ければとおもいます。

色々な機会で私が“ねこふんじゃった”に興味を持ったきっかけが、ドイツのショット社の FLOH WALZER の楽譜を見てと話していますが、その楽譜との出会いで私が始めたのは多くの諸外国版の“ねこふんじゃった”の楽譜集めでした。でもある時「梶田武宗」（マスダタケムネ）氏の“ネコふんじゃったダンスダンスダンス”と言う CD を聞いてその編曲に大感激いたしました。この CD には梶田武宗氏が企画編集され、タンゴクリスタル・玉木カルテットの演奏で “ねこふんじゃった”の編曲の“ウインナーネコワルツ” “ねぼすけ子猫ちゃん”などが11曲も収められています。

これを聞いた感激がきっかけで外国版“ねこふんじゃった”の楽譜収集だけでなく、音源の収集にもものめりこんで行く事になりました。

そうはいっても最初は梶田武宗氏と全く面識も有りませんでしたので、まるでストーカーの如くお願いを続け、根負けした梶田さん自身の編曲の

音源を頂いたり、また「小熊達弥」氏「水森亜土」氏「玉木宏樹」氏など沢山の音楽関係者をご紹介頂きお世話になりました。

以下その様なご縁でお世話になりながら作って頂いた“ねこふんじやった”のご紹介と少しのエピソードなどのご紹介をさせて頂こうと思います。

「小熊達弥」(コグマタツヤ)氏はとても多才な音楽家で“ねこふんじやった”にしてもトロピカル風、オーボエベース、タンゴ風など色々なジャンルの編曲で“ねこふんじやった”を作られています、その中にシャンソン版の“ねこふんじやった”もあります。このシャンソン版“ねこふんじやった”は歌詞があり、これは「天地りつ子」(アマチリツコ)氏が歌っています。この“小熊達弥編曲/天地りつ子歌”の“ねこふんじやった”は聴き始めはこれがあの“ねこふんじやった”とはまるで判らないシャンソンそのものです。またそれはシャンソンとしてもとても美しいメロディで、しばらく聴いていて初めてアッコの曲のベースは“ねこふんじやった”だと気づくほど自然な“シャンソンねこふんじやった”になっています。そうしてそれには天地りつ子氏の素晴らしいフランス語と歌唱力が有るからこそ、である事も言うまでもありません。でも天地さんの専門はナポリターナです。天地さんはナポリに留学しナポリターナ歌唱を習得し、完全なナポリターナであると賞賛されるに至った現在でもなお、毎年ナポリ留学を行いベルカント 唱法の習得に努めるなど研鑽を続けられています。

「藤家虹二」(フジカコウジ)氏と言えば東京藝術大学在学中から当時は異端のジャズ界に入り、卒業後1958年に藤家虹二クインテットを結成しご自身は主にクラリネットと日本のスイングジャズを牽引してきた大御所ですが、ある時話の弾みで“ねこふんじやった”を演奏したことがありますかと聴いた所、なんと黒沼百合子氏のバイオリンと競演の“ねこふんじやった”があり、後日その音源を送って頂きました。とても楽しい“ねこふんじやった”ですが、今は好々爺(・・ではなくて、ご年配の青年)の藤家虹二氏が“ねこふんじやった”を演奏している姿を想像しながら聴くとまた格別の楽しさがこみ上げます。その藤家虹二氏、「若い頃のジャズをやるような連中は、音楽家とは言ってもやんちゃな連中が多く、コンサートの楽屋と言え壁際には酒の空き瓶がズラーッと並んだものだが、今じゃドリンク剤の空き瓶が並ぶ」と笑わせてくれていました。藤家さんにはその後もミュージックジョイミヤモト主催の“青少年のためのコンサート”に出演して頂き、素晴らしいスイングジャズを聞かせて頂くなど、

お世話になっております。

「松本峰明」(マツモトホウメイ)氏も有名なJAZZ畑の演奏者ですが松本さんは童謡をジャズピアノで演奏する遊びもよくされています。そこで“ねこふんじゃった”のジャズ版をとお願いした所快く作ってくれましたが、聴いてみて大驚き!!、この“JAZZ ねこふんじゃった”は子供の童謡の“ねこふんじゃった”とは全く趣が異なり、大人がホテルのバーでグラス片手に聴くようなとてもムーディな編曲になっており、さすがに“夜に大人に聴かせる演奏”の経験が感じられます。松本峰明さんは藤家虹二さんよりずっとお若いですが、藤家虹二さんのお若い頃のような“やんちゃ”などころは感じられないおとなしい方です。(・・・と思います)でもやはり夜の仕事の多いジャズの世界の事、ご自身の事とは限らなくても、きっとおもしろいエピソードが沢山あるとおもいます。この編曲を聴くと、グラス片手にのんびりその様なお話を聞きたい気分になります。

「住田政男」(スミタマサオ)氏は現在フラメンコ協会理事を勤められていてさらに、日本を代表するフラメンコギタリストでもあります。この住田政男氏がすばらしいフラメンコバージョンの“ねこふんじゃった”を作ってくれましたが、これにはちょっとしたご縁の橋渡しがありました。“ねこふんじゃったフラメンコバージョン”はじつは先に別のバージョンがありました。それでその曲を元に日本のフラメンコダンサーの第一人者である「吉野真未」(ヨシノマミ)氏にそれを踊って頂けないかとお願いした所、その編曲は演奏用の編曲でダンス用の編曲ではないから踊れない、と言うお話でした。このとき初めて一言でフラメンコと言っても演奏用の曲とダンス用の曲ではテンポや間の取り方が違い、夫々には夫々の編曲が必要と言う事を知りました。そうしてその様なお話を聞き、またこちらの“ねこふんじゃった”の活動をお話したりして暫くたったあとで、なんとフラメンコ協会理事で日本のフラメンコギターの大御所である住田政男氏が“フラメンコダンスバージョンねこふんじゃった”を作って下さって、それを吉野真未氏が踊ってくれると言う夢の様な組合せが実現しました。それというのも、じつは住田政男氏と吉野真未氏のご夫婦であり、お二人で日本のフラメンコ界を引っ張っておられる方々です。ご両人ともフラメンコに懸ける情熱は素晴らしく、またうらやましいご夫婦でもあります。

“ねこふんじゃった”はどうやら発祥はドイツらしく、FLOH WALZER が

最初らしいとわかってきました。（まだ“らしい”の段階ですが・・・）

そうして本来は上に紹介したようなポピュラー系の曲ではなくクラシック系の曲から色々な編曲が行われて各国で親しまれていった曲というのが正しいようです。わたしが集めた“ねこふんじゃった編曲“でもワルツ版（FLOH WALZER はワルツではないのですが・・・）や、バロック調などクラシック系に編曲された“ねこふんじゃった”も沢山有り、諸外国の編曲も必ずしも童謡やポピュラー系とは限りません。このたびキングレコードから今まで集めた“ねこふんじゃったの謎”と言うCDが出る事になりましたが、このCDに取って置きの編曲として「玉木宏樹」（タマキヒロキ）氏の“ウイナーネコワルツ”が加わる事になりました。この編曲は華やかな美しいワルツの演奏の“ねこふんじゃった”になっております。今までご紹介した“ねこふんじゃった”とはまた一味違う上品なメロディを楽しめます。

私たちにとって“ねこふんじゃった”は童謡やポピュラー系のメロディとして記憶されていますが、それが遊び心で編曲された意外なジャンルのメロディとしてトップクラスの音楽家による最高の編曲で聴かされると、驚きと感激が交差し思わず頬が緩んでしまいます。今回はその様な名編曲の一部とエピソードをご紹介させて頂きました。

最後に、いままでご紹介したのは“ねこをふんじゃった”ものばかりですが、いつも踏んでいるばかりでは猫好きに申し訳ありません。そんな中“ふんじゃいけないヨ！！”と言う事を歌にしたおもしろい編曲もあります。「小室等」氏が作り、「水森亜土」氏と「光井章夫」氏が掛合いで歌っている“ねこふんじゃダメ”と言う曲がそう言う曲です。この曲は基本的に従来の“ねこふんじゃった”のメロディを踏破してウエスタン調に編曲されたコミカルな乗りの良い曲ですが、歌詞がとっても面白く“ねこふんじゃった”のかわりに水森亜土さんが“ねこふんじゃダメ”と歌うと光井章夫さんの合の手が“ねこふんじゃダメなの？”と語りかけるとても面白い構成です。今まで色々なジャンルのトップクラスの音楽家にそのジャンルの編曲を中心に“ねこふんじゃったアラカルト”をお願いしてきましたが、今後はこの“ねこふんじゃダメ”のようにユニークな歌詞のほうも彩を増やせて行けたらと思っております。





連続エッセイ 【外科医のうたた寝】 第18話



《さつま汁を巡る旅》

純正律音楽研究会理事 福田六花（医学博士、作曲家）

10年以上前、なにかの本で〈さつま汁〉のことを読んだことがあった。焼魚の身をほぐして、麦味噌と昆布だしに合わせた汁を、温かいゴハンにかけて食べる漁師料理のようなもので、いつかは食べてみたいと思っていた。〈さつま汁〉と云う名前からてっきり鹿児島の料理だと思っていたので、8年ほど前に鹿児島に行った際に郷土料理店で注文したところ、鶏肉と野菜のごった煮のようなものが出てきた。腑に落ちず後日調べてみたところ、〈さつま汁〉には2種類あり、僕が食べたかった〈さつま汁〉は愛媛県の宇和島の料理であった。その昔、鹿児島から宇和島に流れ着いたヒトが広めた料理なので、〈さつま汁〉と呼ばれているらしいことも解った。

3年前から毎年愛媛県でコンサートをするようになり、ようやく食べたかった〈さつま汁〉に巡り合うことが出来た。今年も6/30～7/1にバンドのメンバーと愛媛に出かけて行ってコンサートを行った。瀬戸内海を見下ろすロッジで行われるコンサートは、とても和やかで楽しいヒトトキである。演奏終了後の夜に、主催してくれた未来企画のスタッフが、〈さつま汁〉を作って御馳走してくれた。温かい麦飯に、ほぐした焼魚と麦味噌のドロリとした冷たい汁をかけ、更には胡瓜や大葉の千切りを乗せて食べる。この爽やかで濃厚な愛媛の夏の料理は、今では僕の好物である。ビールを飲み、さまざまな愛媛の郷土料理に舌鼓を打ち、愛媛の仲間達と語り明かしながら、音楽を続けられる喜びをしみじみとかみ締めた。

福田六花コンサート情報

8/24 金曜日 渋谷 KABUTO (03-3463-6699)

幸六（こうろく）、、、、福田六花、栗栖幸吉、和田裕二、和丸
天才少年ドラマー和丸クンをゲストに迎えての東京ライブです。

詳しくはホームページを御参照下さい。

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~ricka/index.html> (福田六花 official web site)

CD レビュー 純正茶寮

アルバム 【RinginRing】 ~Ancient Stone~

純正律音楽研究会 理事 黒木朋興



POSEIDONさんからサンプルCDが届いた。POSEIDONと言えば、ZAOやRichard Pihnas (Heldon) の来日公演を企画したり、KKBやアイン・ソフなどプログレ系の日本のバンドのアルバムをリリースしているレーベルである。フランス語の通訳や翻訳などのお手伝いをしている縁で、いろいろとおつき合いがある。

というわけで、また良質のロックが聴けると楽しみにかけてみると、古楽器を使った古楽のアンサンブルではないか！ なんてPOSEIDONさんがこんなCDを、と思ったら、リュート担当の浅倉さんはやはりPOSEIDONさんがCDをリリースしているバンド水鏡でエレキギターを弾いている人だった。水鏡と言えば、和旋律を使ってロックを演奏するグループだが、古楽に精通しているとは、もともとモード音楽に対して深い理解があった方なのである。 奇麗にハモるリコーダーの響きは当然のこととして、特に注目したいのがヴィオラダガンバの音である。この楽器をよく知らない人にはチェロの音と間違えてしまうかもしれないが、チェロと違ってメロディの流れがどことなくぎこちなく角ばっている印象を受ける。何故ならギターなどと同じようにフレットがついているからだ。

南仏に住んでいた頃、ドイツ出身のマチアスさんというヴィオラダガンバ制作者の知り合いがいた。文学や哲学にも造詣が深い方だが、ある日のこと中全音律で演奏するための捕捉のフレットについて話をしてくれた。中全音律とは3度の響きの美しい調律である。この楽器のまろやかな響きによくあった調律だと思う。 対してリュートは、浅倉さんに確認したところ残念なことにすべて平均律だそう。今までも何人かのリュート奏者の方と話したが、総じて調律の問題にはあまり関心がない人が多い。弦を弾いて演奏するこの種の楽器は音がすぐに減衰していくからか、幸いなことにこのアルバムでは平均律があまり気にならない。 音律研究の盟友名須川学氏に紹介して頂いた『音楽三昧』主催の田中潤一氏など古楽の演奏家の多くは音律問題に造詣の深い方が多いのだが、リュート演奏者の関心が低いのはどういうわけだろう？と思う。

とは言うものの、このアルバム、全体としては奇麗な響きに仕上がっていると言えよう。特に、プログレファンの市場にこのような古楽の響きが流れることは好ましいことのように思われる。

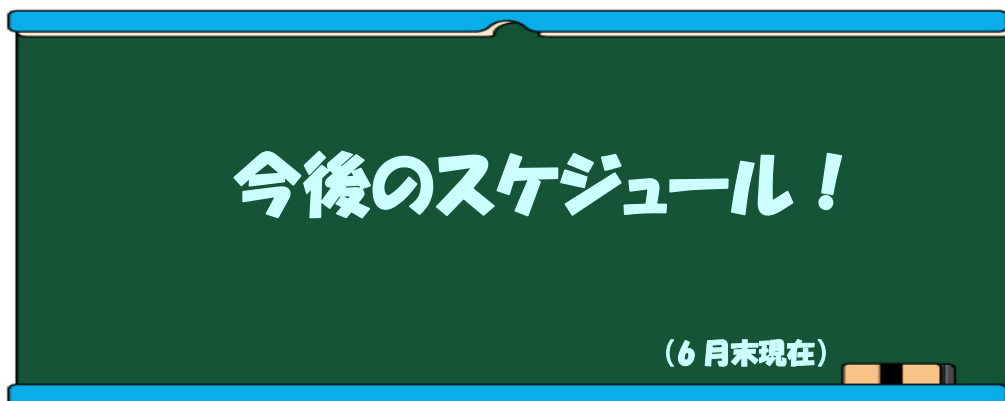


イベントレポート

- ☆ 去年の10月に出演して話題になったNHK『ラジオ深夜便』が本になりました。『ラジオ深夜便 ころの時代3』NHK サービスセンター¥480です。
- ☆ 皆さんおなじみのシンガーソングライター福田六花氏が、『かいご学校』という雑誌の3月号『音楽のチカラで認知症の人が穏やかになる』という記事を書いてくれました。河口湖の老健施設『はまなす』での実践体験のお話です。
- ☆ シャンソンをはじめ日本の抒情歌など、聴く人の心にやさしく響く歌唱で知られる歌姫、紫倉麻里子さんのCD『幸せを抱きしめて』に、ヴァイオリン演奏で参加しました。純正律ではないですが、玉木のポピュラー・ヴァイオリンが聴けます。ジャズ風の響きでみんなの知らない一面が楽しめる一枚です。
お問合せ：ジブラン (03-3397-7800 <http://www.shikura-mariko.com>)
- ☆ 4月12日、半蔵門のFM東京隣のビルで、異業種交流会『J-クラブ』の集まりにて、純正律の実演とセミナーをやりました。FM東京やニッポン放送、その他多士済々の集まりで、皆さん興味深く聴いて下さいました。
- ☆ 4月19日、初台のオペラシティ内『近江楽堂』にて、出版記念コンサートを開催しました。ウィークデイにも拘わらず満員でした。まず水野佐知香さんと2台ヴァイオリン用に編曲したモーツァルトを中心に8曲。後半は三宅美子さんのハープと玉木のDuoで新CD『天の川』から8曲演奏しました。とても響きのいい会場で、これからここを拠点にしようかという話も出ています。

- ☆ 4月21日、青山通りそばの『はなはな』という店で出版記念パーティ。玉木の昔からの友人達を中心に60名くらいの集まり。名古屋から岡田さんも参加してくれ、また芸達者の多い参加者が沢山演奏してくれました。出版芸術社・原田社長の尺八をはじめ、ドクター六花のギターと歌、水野さん親子のDuo ヴァイオリン、現代邦楽研究所の若手による私の邦楽作品の演奏等々で、大いに盛り上がりました。
- ☆ 4月25日、野方の区民ホールで、ネパールの支援チャリティコンサート『音の自然食 純正律音楽コンサート』開催。三宅美子さん、シンガーソングドクターである福田六花氏と出演しました。
- ☆ 5月17日、健康誌『壮快』7月号の特集『耳鳴りと難聴』に、純正律音楽の効用が取り上げられました。全国から純正律 CD のご注文が殺到致しました。
- ☆ 5月25日、TBS ラジオ土曜ワイド『永六輔その世界』に出演致しました。4月に出版芸術社から発売した『音楽革命論-クラシックの壁をぶち壊せ!!』の告知をしたところ、100冊程のご注文がありました。
- ☆ 6月9日、NPO 純正律音楽研究会の理事会・総会を行いました。(前述)
- ☆ 名古屋・伏見の電気文化会館イベントホールにて『純正律音楽セミナー』を行いました。(前述)
- ☆ 6月23日、再びTBS ラジオ土曜ワイド『永六輔その世界』に出演、演奏と楽しいおしゃべりの4時間でした。(前述)





- ☆ 7月13日（金）に、新宿にあるドイツ式酒場【昇華堂】にて、玉木が演奏致します。店のオープンは19時。開演は19時半辺りからです。皆様、是非気軽にお越し下さい。
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-37-5 日新ビル 3F 【昇華堂】
Phone: 03-3207-5025
<http://www.drop-dead.co.uk/shouka-do>

- ☆ 8月4日（土）、福島県のあるイベントで、玉木が1時間半程、演奏とセミナーを行う予定です。詳細未定です。決定次第、ホームページ等でご連絡致します。

- ☆ 8月19日（日）、9月1日（土）、9月8日（土）の3回【都電貸切り演奏会】を行います。
13:00 早稲田出発～三ノ輪橋 都電一車両貸切り 50分間の旅。
定員：それぞれ25名様限定。
料金：¥4,000/1名様（玉木宏樹ミニCD『ミネラル・ミュージックの真髄』プレゼント付き）
ご予約：info@pure-music.ne.jp または、お電話（03）3407-3726 まで。
（定員になり次第、締切らせて頂きます）

- ☆ 9月22日（土）、本厚木【ケアセンターあさひ】にて、職員皆様の為のリラクゼーション演奏会を行います。



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ
さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。次号の【ひびきジャーナル】
にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒106-0031

東京都港区西麻布 2-9-2 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-3407-3726

FAX : 03-3797-5640

e-mail : info@pure-music.ne.jp

<http://www.pure-music.ne.jp>

<http://www.archi-music.com/tamaki/>

<http://d.hatena.ne.jp/pure-music/>

発行責任者： 玉木宏樹

編集 : 秋山治樹・相坂政夫

平成 19 年 6 月